



登る？登れる？登りますか！ 大日岳

一度も大日岳に登ったことのない私。行ってみたいけど、どうしよう。普段ほとんど運動していないし、それどころか歩いてもない。それなのに山登りなんてできるのか？ そんな不安がぐるぐると…。ところが、ある朝、長男が言いました。「ひるがの一と」に載せれば？ その言葉に背中を押され、公民館の大日岳登山に参加。登ってきました、ひるがの屋根に。



やっぱりハイキング気分じゃあ、登れないか。

「雨なら中止だね」と思っていた私に「甘い。」とでも言っているかのような上天気。抜けるような青空の下、山には新しい夏の匂いが満ちていて、すばらしい登山日和です。参加者全員で軽い準備体操をして、9時過ぎ、いよいよ出発です。今回はダイナランドスキー場のゲレンデから登るコース。スキーシーズンはリフトで上り、スキーで滑る斜面です。それが歩くと、なんて大変なんだ。砂利に足を取られて滑るのです。まだ登山口にも到着していないのに、すでに疲労度はMax。やっとゲレンデを登りきると、ひるがのが足元に小さく見えています。一瞬、ヤッホーな気分。ちよっぴりテンションも上がります。それもつかの間。ここから先は、笹やぶの中の細道です。道はさらに急な登山になってきて、口数も減ってきます。当たり前だけど、斜面が急になると、足だけでなく心臓も辛いわけで、息も荒くなって、顔も陰しく…って、これじゃダメか。せめて気分は明るく

いきたいところです。一緒に登っている祐子ちゃんがアメをくれました。大げさなようですが、甘いものって心の疲れも吹き飛ばしてくれるんだな。この後も折れそうな心を何度となく鉛玉で修復しつつ、山頂を目指す私たち。スタートからかれこれ二時間ちょっと登って、山頂はまだかとへろへろな時、頂上から下りてくるご夫婦に出会いました。「あと、どれくらいですか？」「そうだね、4~50分ってとこじゃないかな。」うっ、聞かなくちゃよかった。それでも、どうにかこうにか亀のような歩みを進めます。この頃にはもう、一緒に登山始めた誰も周りにはいなくなっていて、単独登山みたい。すると、ぱっと開けた視界の先に尾根伝いに歩く子供たちの姿が小さく見えます。あの先が頂上？そこから、もうひと踏ん張り急斜面を登り、やっと、やっと頂上に到着一つ。



頂上でハイチーズみんな揃って記念撮影。この日は頂上も暑かった。

6月8日(水) 快晴

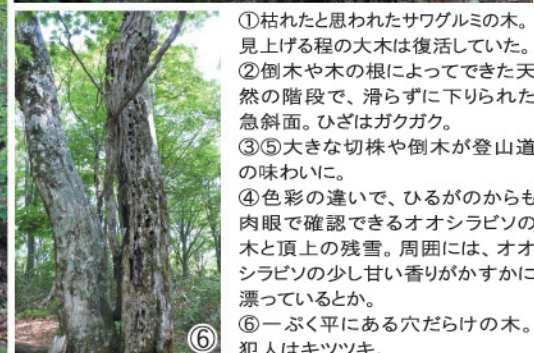
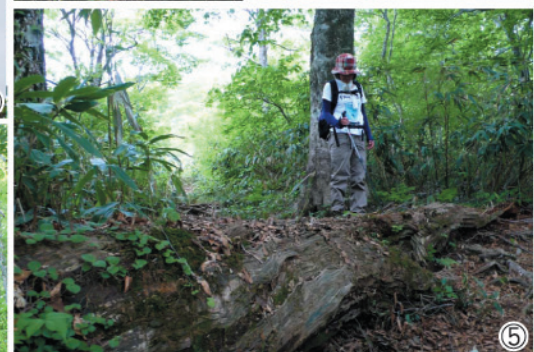
高鷲の公民館と、小中学校の合同行事として実施された大日岳登山。一般の方々約30名と、高鷲小5年生、高鷲北小4・5年生、高鷲中1年生のみなさんが参加しました。



上:ダイナランド山頂付近 上野高原を一望しながら一休み 左:登山スタート まずは元気に出発です。

頂上にて

頂上では、みなさんのお弁当タイムも終わりがけ。そこで急いでおにぎりを頬張るけど、暑くて食欲もイマイチ。ハンバーグ(しかも煮込み)なんて「うえっ」て感じです。山登りの時はホントに おにぎりや漬物くらいでいいんだ。そうこうしてるうちに周りは「そろそろ下山ムード」で、記念撮影をしたり、点呼をしたり。そして私たちは、また団体の一番お尻について頂上とはさよならをしました。でも考えてみたら、もう少し頂上を満喫すればよかった。せっかく山のとっぺんに来たんだから、もっと周りをよく見渡して「いやっ、ほーっ」なんてやればよかった。そんな余裕、全然なかったな。悔いが残ります。



①枯れたと思われたサワグルミの木。見上げる程の大木は復活していた。
②倒木や木の根によってできた天然の階段で、滑らずに下りられた急斜面。ひざはガクガク。
③⑤大きな切株や倒木が登山道の味わいこ。
④色彩の違いで、ひるがのからも肉眼で確認できるオオシラビソの木と頂上の残雪。周囲には、オオシラビソの少し甘い香りがかすかに漂っているとか。
⑥一ぶく平にある穴だらけの木。犯人はキツツキ。

できれば、何度も登ってみたい…かな。

行きは、ただひたすら登るだけでしたが、下りは瀬川さんに大日の植物についてあれこれガイドしてもらうことができました。瀬川さんはこれまでにどれくらい大日に登ったのか、とにかく「どん な木や草花がどこにあって、今の時期はどんな状態だ」なんてことが完全に頭に入っているようでした。何を聞いても、色々な情報を上乘せして答えてくれます。そうなんだなあ、と思いました。山はいつもそこであって、でも水の流れるように同じ瞬間は二度とない。季節により、その年の気候により、見たいものに会えたり、出会えなかったり。瀬川さんが「あ、復活してる。」と驚いたように言いました。見上げると、枯れ木かと思われる大木のいちばん上の方に若い緑の葉っぱが出ています。2~3年前に枯れた(と思っていた)木の再生。こんなすごいミラクルに、初めて登った私が出会えることもある。でも、次に同じ光景を見られるかは、わからないのです。



上:大日如来像

右:頂上の三角点 頂上にはいろんな物が建っていますが、ホントの頂上の印はこの、四角いヤツです。踏んだ人、だあ〜れた。



一ぶく平

その名のとおり、一息いれるポイント。登り場合は「胸突き二丁目(!?)」など急坂の難所を終え、中盤地点にあたる。

大日ヶ岳の植生の特徴

垂直分布は、登山口から標高1500mあたりまでが、ブナが多い植生、それ以上が、ダケカンバが多い植生です。山頂付近やその周囲の急斜面は、強風や雪の影響で大きな樹木が育ちにくく、笹に覆われています。標高1630m付近にあるオオシラビソ(アオモリドマツ)の林についてですが、白山は日本のオオシラビソの分布の西限とされています。大日ヶ岳は、白山より少し東に位置しますが、オオシラビソの分布のほぼ西限と言えます。



花はムシが好むという白が多い。花の他、春から鳴くセミの声や、朴の花の甘い匂いなど、山の自然が私たちの鈍くなった五感を刺激します。
イワナシ
オオカメノキ
サンカヨウ
タムシバ
ツバメオモト
ハウチワカエデ
ミツバオウレン
ミヤマシキミ
ムラサキヤシオ

一期一会。山のミラクル。

大日ヶ岳/DATE

標高1709m。717年(養老元年)に泰澄上人が山頂に大日如来を祀り開山したのが由来と言われる。白山国立公園内の両白山南部に位置する。なお、白山から能郷白山(のうごうはくさん)を含む富山・岐阜・石川・福井・滋賀にまたがる山城を両白山地(りょうはくさんち)と呼びます。両白山地はさらに、白山を主峰とする岐阜・石川・富山にかけての加越山地と、能郷白山を主峰とする岐阜・福井・滋賀にかけての越美山地に分かれます。大日ヶ岳は加越山地のほぼ南東の端に位置します。